



Press Release

令和4年10月3日
タレンツ・トーキョー実行委員会

カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭でも注目されるアジアの映画人を多数輩出
映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2022」メイン講師・参加者決定
世界で活躍が期待される企画を選抜する「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」も発表

タレンツ・トーキョー実行委員会は、映像分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能(=Talents、タレンツ)」を育成することを目的とした「タレンツ・トーキョー」を、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京との共催で2010年から毎秋に実施しています。アジアの若手映画作家やプロデューサーを東京に招き、6日間にわたるワークショップを通じて、世界で活躍していくためのノウハウの学ぶ人材育成事業です。また、本事業は「ベルリン国際映画祭」の一環として開催されている「ベルリナーレ・タレンツ」の、海外展開における唯一のアジア版として実施するもので、カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭で受賞する修了生も多く、世界的に活躍する映画人を多数輩出しています。

13回目となる今回は、コロナ禍を経て「(Re) Opening」というテーマのもと、2022年10月31日(月)～11月5日(土)の日程で行います。また、一般公開の対象となる公開プレゼンテーションも、11月3日(木・祝)に行います(取材及び観覧は要事前登録、詳細は後日お知らせします)。

この度、今春より開始していた参加者応募選考の結果、15名の参加者(タレンツ)が決定しました。またメイン講師には、映画監督のアンソニー・チェン氏(シンガポール)、プロデューサーのレイモンド・パッターウィラクーン氏(タイ)、ワールド・セールスのシエ・モン氏(中国)、ベルリン国際映画祭からフロリアン・ウェグホルン氏(ドイツ)の世界で活躍する4名のプロフェッショナルを迎えます。さらに、本事業修了生を対象とし、今後世界での活躍が期待される企画を選抜しサポートする「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」の対象企画も決定しましたので、あわせてお知らせします。

※詳細については、別紙1～3をご参照ください。

<開催概要>

(*本事業は、平成22年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌23年度から25年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、26年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)

名称：タレンツ・トーキョー 2022 (Talents Tokyo 2022)
会期：令和4(2022)年10月31日(月)～11月5日(土)
※11月3日(木・祝)「公開プレゼンテーション」取材及び観覧の事前登録に関する詳細は後日発表
会場：ゲート・インスティテュート東京 (東京都港区赤坂7-5-56)
公式サイト：<https://talents-tokyo.jp>
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会
提携：ベルリン国際映画祭(ベルリナーレ・タレンツ)
協力：ゲート・インスティテュート/東京ドイツ文化センター

<本事業、掲載に関するお問い合わせ>

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局 担当：金谷、林
TEL: 03-6382-6459 E-mail: talents@talents-tokyo.jp

別紙1 「タレンツ・トーキョー 2022」 メイン講師



(左から、アンソニー・チェン氏、レイモンド・パッターナーウィラクーン氏、シエ・モン氏、フロリアン・ウェグホルン氏)

アンソニー・チェン (監督)

映画監督・プロデューサー。シンガポール出身。シンガポールの映画学校とイギリスの National Film and Television School で学ぶ。短編が映画祭で上映され、いくつかの賞を受ける。

長編デビュー作『イロイロ ぬくもりの記憶』が 2013 年のカンヌ国際映画祭でカメラ・ドールを受賞。その後、ロンドン映画祭で Sutherland 賞や金馬奨で 4 部門を含む国際映画祭で 40 の賞を受賞。長編二作目の『熱帯雨』(2019) はトロント国際映画祭コンペティション部門に出品。金馬奨で 6 部門にノミネートされ、国際映画祭で 12 の賞を受賞する。どちらの作品もアカデミー国際長編映画賞のシンガポール代表として選ばれる。短編最新作「The Break Away」がアンソロジー作品『永遠に続く嵐の年』の一部として発表。アメリカの配給会社 Neon プロデュースの今作は、2021 年カンヌ国際映画祭で上映。現在、初英語作品「Drift」と初中国作品「The Breaking Ice」を制作中。

プロデューサーとしてはシンガポールに拠点を置く自社 Giraffe Pictures で活躍。Giraffe Pictures の最新作には釜山国際映画祭コンペティション部門に出品された HE Shuming の長編デビュー作『Ajoomma』や、ロカルノ国際映画祭で上映された Sorayos PRAPAPAN の長編デビュー作『Arnold is a Model Student』などがある。

現在は香港を拠点とし、ヨーロッパとアジアで活動。

レイモンド・パッターナーウィラクーン (プロデューサー)

タイ出身。脚本集中プログラム東南アジアフィクションフィルムラボ SEAFIC の元エグゼクティブディレクター。トロント国際映画祭のインターナショナルプログラマー、香港国際映画祭とカンヌ国際映画祭批評家週間のプログラムコンサルタントとして従事していた。かつては、インターナショナルセールスエージェントのフォルテシモフィルムズのマーケティングと特別プロジェクトのディレクターを務め、香港アジアフィルムファイナンスフォーラム (HAF) の委員やアジアフィルムアワードのアドバイザーメンバーも担った。ベルリン国際映画祭や香港、サラエボ、シアトル、アンタルヤをはじめとする多くの国際映画祭の審査員を務めた経験もある。他には、『見習い』(ブー・ユンファン監督/カンヌ国際映画祭ある視点部門 2016)、『サムイの歌』(ペンエーグ・ラッタナルアーン監督/ヴェネチア国際映画祭ヴェニスデイズ部門オープニング 2017)、『ヘッドショット』(ペンエーグ・ラッタナルアーン監督/ベルリン国際映画祭パノラマ部門 2011)、『チェッカーで (毎回) 勝つ方法』(ジョシュ・キム監督/2015)、『ドリーム・ホーム』(パン・ホーチョン監督/2010)、『アバディーン』(パン・ホーチョン監督/2014)、『13 人の命』(コ・プロデュース/ロン・ハワード監督/2022) など多くの国際共同制作を手がけている。2013 年にはスクリーン・インターナショナルより”Future Leaders: Producers”、2017 年には釜山の Asian Film Commission により”Producer of the Year”に任命される。

シエ・モン（ワールド・セールス）

中国出身。Rediance の創設者であり CEO。プロデューサーとして参加した作品には、アンソニー・チェン監督の『The Breaking Ice』（2022）、『The Break Away』（2021）、『熱帯雨』（2019）、GENG Jun 監督の『Manchurian Tiger』（2021）、『Free and Easy』（2016）、アピチャップン・ウィーラセタクン監督の『MEMORIA メモリア』（2021）、ベン・リヴァースとアノーチャ・スウィチャーゴーンポン共同監督作品『Krabi, 2562』（2019）などがある。Rediance が手がけた作品には『象は静かに座っている』（2018）、『気球』（2019）、『永安鎮の物語集』（2021）、『The Science of Fictions』（2019）、『Whether the Weather is Fine』（2021）、『Piaffe』（2022）などがあり、30 以上の作品で賞を受賞し、国際マーケットに売り出した。

2009 年から 2014 年まで、ユーレンス現代芸術センターの映像キュレーターを務める。審査員として、トロント国際映画祭、CPH : DOX、FIDMarseille、北京国際映画祭、FIRST Film Festival Xining に招待される。2021 年には平遥国際映画祭から中国映画への国際的な貢献を讃えた賞を贈られる。

フロリアン・ウェグホルン (Berlinale Talents)

ベルリン国際映画祭の人材育成プログラム、ベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャー。7 カ国に渡り、1 万人の修了生を誇るタレンツ・インターナショナルのアドバイザーも務める。

1976 年、ドイツ・オルデンブルグ生まれ。ケルン大学で Theatre, Film and Television を学ぶ。2002 年にベルリン国際映画祭のジェネレーション部門に参加。2008-2014 年には同部門の共同ディレクター・キュレーターとして、短編・長編含め 60 作品を毎年上映。2012-2019 年には同映画祭のコンペティション部門の選定委員を勤めた。

ヨーロッパ・フィルム・アカデミーの一員としてベルリン国際映画祭以外の映画祭や、フィルム・ファンド、文化施設に携わる。映画と若者に関する出版物をいくつか執筆・編集している。

© photo: Alexander Janetzko

別紙2 「タレンツ・トーキョー2022」参加者（タレンツ）

監督：

Lomorpich Rithy aka. YoKi（カンボジア）
XIAO Baer（中国）
Aldo Swastia（インドネシア）
慶野優太郎（日本）
奥野俊作（日本）
SON Heui Song（韓国）
Ananth Subramaniam（マレーシア）
Maung San（ミャンマー）
Charlotte HONG Bee Her（シンガポール）
Siyu TAN（シンガポール）
Cheryl WONG（シンガポール）
LIM Lungyin（台湾）

プロデューサー：

宮瀬佐知子（日本）
KUO Ming-Jung（台湾）
Joshua LEVY（ベトナム）

* 氏名（国名／地域名）

選考委員会には、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長）が参加しました。

一次選考には、深津純子（作家/東京フィルメックス・理事）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター）、金谷重朗（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）、林未侑（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）が参加しました。

* タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

* 令和4年10月3日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

別紙3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画

a) 企画開発ファンド

今井太郎 (TT2018 修了、日本) <Quantum Suicide>

古川原壮志 (TT2019 修了、日本) <The Little Mermaid>

Arvin BELARMINO (TT2021 修了、フィリピン) <Ria>

Rafael Manuel (TT2021 修了、フィリピン) <Filipiñana>

CHAO Hsuan (TT2021 修了、台湾) <Life Derailed>

Ratchapoom BOONBUNCHACHOKE (TT2021 修了、タイ) <A Useful Ghost>

LÊ Lâm Viên (TT2012 修了、ベトナム) <FIX ANYTHING>

b) インターナショナル・プロモーション・ファンド

CAI Jie (TT2016 修了、中国) <Borrowed Time>

PUREVDASH Zoljargal (TT2017 修了、モンゴル) <If Only I Could Hybernate>

*氏名 (タレンツ・トーキョー修了年、 国名/地域名) <企画名>

選考委員会には、池田高明 (NHK エンタープライズ)、市山尚三 (タレンツ・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長) が参加しました。

一次選考には、神谷直希 (タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター)、金谷重朗 (タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス)、林未侑 (タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス) が参加しました。

*受賞者名は国名/地域名のアルファベット順で表示しています。

*令和4年10月3日時点の情報であり、変更になる可能性があります。